

# 1 事業名：雑草イネ撲滅実証モデル事業

## 要約

- ・前年に雑草イネが多発生したほ場（2ヶ所）で除草剤体系処理を行い、その効果を確認した。
- ・前年、作付けを中止し秋までに耕起を繰り返し、本年、除草剤体系処理を行ったほ場では、雑草イネの発生は見られなかった。
- ・本年、除草剤体系処理を行ったほ場では、前年に比べて雑草イネの発生を軽減することができた。
- ・このことから、除草剤体系処理の有効性が確認できた。

担当者：松本農業改良普及センター 西沢

## 1. 事業設定の背景と目的

市内で増加している雑草イネ（赤米）を撲滅するため、現地実証モデルほを設置し、雑草イネ対策として推奨する除草剤の体系処理を実施し、その効果を確認した。

## 2. 調査研究の内容

(1)実施時期 平成25年4月～10月

(2)実施地区 安曇野市豊科・三郷地区 各1ほ場

(3)調査方法

- ・前年に雑草イネの発生が多かった2ほ場において、除草剤の体系処理（①田植え直後、②その10日後、③その10日後の計3回）を行い、その効果を確認した。
- ・供試品種：コシヒカリ
- ・栽培方法：移植（中苗）

### ■豊科ほ場（面積：20a、田植え日：5/18）

区	薬 剤 名	散 布		
		時 期	量 (/10a)	方 法
試験区	エリジャンジャンボ	移植後2日(5/20)	10個(300g)	畦畔及び水田内から投入
	スパークスター1キロ粒剤	移植後10日(5/28)	1kg	手間し散粒器
	クロアSM粒剤	移植後20日(6/7)	3kg	手回し散粒器
無処理区	キックバイ1キロ粒剤	移植後2日(5/20)	1kg	手 散 布

※前年：田植え後に雑草イネ多発生、5/下にて作付けを中止。秋までに3回耕起。

### ■三郷ほ場（面積：30a、田植え日：5/18）

区	薬 剤 名	散 布		
		時 期	量 (/10a)	方 法
試験区	エリジャンジャンボ	移植後2日(5/20)	10個(300g)	畦畔及び水田内から投入
	スパークスター1キロ粒剤	移植後8日(5/26)	1kg	手間し散粒器
	クロアSM粒剤	移植後20日(6/7)	3kg	手回し散粒器
無処理区	キックバイ1キロ粒剤	移植後2日(5/20)	1kg	手 散 布

※前年：収穫後に秋起こしを実施。

### 3. 結果の概要及び考察

#### (1) 雑草イネ調査

##### ■豊科ほ場

区	発生個体数（6月22日）		発生個体数（8月22日）	
	本数 (本/a)	同左比率 (%)	本数 (本/a)	同左比率 (%)
試験区	0	—	0	—
無処理区	0	—	0	—

##### ■三郷ほ場

区	発生個体数（6月22日）		発生個体数（8月22日）	
	本数 (本/a)	同左比率 (%)	本数 (本/a)	同左比率 (%)
試験区	15	54	13	52
無処理区	28	100	25	100

#### (2) 稲の生育調査（参考）

##### ■豊科ほ場

区	薬害		最高分げつ期 (7月18日)		出穂期 月/日	成熟期 (9月3日)		
	程度	症状	草丈 (cm)	茎数 (本/a)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/a)
試験区	無	—	77	631	8/6	89	18.0	526
無処理区	—	—	73	621	8/6	87	18.2	500

##### ■三郷ほ場

区	薬害		最高分げつ期 (7月18日)		出穂期 月/日	成熟期 (9月3日)		
	程度	症状	草丈 (cm)	茎数 (本/a)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/a)
試験区	無	—	69	586	8/10	82	18.7	442
無処理区	—	—	68	558	8/10	86	18.3	486

- ・豊科ほ場は、前年の作付けを中止し、秋までに3回の耕起を実施したこと、本年の除草剤体系処理により、雑草イネの発生は見られなかった。
- ・三郷ほ場は、除草剤の体系処理により、前年に比べて雑草イネの発生を軽減することができた。

### 4. 成果の活用と今後の方向性

- ・現地実証モデルほをさらに増やし、目に見えるかたちで水稻生産農家への啓発を図る。
- ・除草剤の体系処理をはじめ、雑草イネの総合防除対策をチラシ等で水稻生産農家へ周知する。



豊科ほ場（6月18日）  
雑草イネの発生は全く見られなかった



三郷ほ場（6月18日）  
雑草イネは目立った発生ではなかった